

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 18 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503692		
法人名	有限会社 どんぐり村		
事業所名	グループホームどんぐり村		
所在地	広島県福山市今津町1456-1 (電話) 084-933-6138		
自己評価作成日	平成22年10月7日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471503692&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニット9人の小さなG.Hなので、利用者、職員共、家族のような関係が築かれている。地域の人に支えられながら、笑顔と笑いの耐えないG.Hである。 又、利用料はご本人、家族の理解を得られるよう、安価に設定している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>近くに河川敷があり、豊かな自然環境の中で季節の移り変わりを実感しながら施設理念である「ゆっくり、楽しく、自分らしく」生活の営めるよう支援している。職員が日々のケアを考える際に管理者の方針として「自分の家族として接し笑顔を絶やさない視点を大切に」が浸透している。また、言葉の虐待や鍵をかけることへの弊害等、認知症への理解の深さやケアの質を維持できるよう、日々のケアの中で職員全体として注意をしていく体制が自然と作り出されている。外出は、お花見や紅葉狩り、スーパーへの買物、地域のお祭り「ほたるの夕べ」に参加、公民館でのお茶会・近くの花菖蒲を見に行く等支援をしている。施設内では、たこ焼き、梅干作り、白菜を漬ける等と行事が盛りだくさんである。毎月、利用者の家族に「どんぐり村便り」を発行しホームでの生活の様子をお一人おひとりに「どんぐり村便り」と写真を添えて送付している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今までの生活の持続性が保たれるよう、一人ひとりのペースに合わせて持っている力を活用し、笑顔が出る生活が送れるようになる為、理念を職員会議等で再確認しながら、実践をしている。	地域密着型サービスの意義を会議でも話し合い、事業所の理念「ゆっくり・たのしく・自分らしく」を玄関に掲げ職員全員で基本的理念をよく理解し実践に取り組まれている	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として、町内の行事に参加させてもらっている。又、散歩時等、挨拶や話等して下り、日常的な交流が出来ている。	近隣住民から野菜等の季節ごとの食材のおすそ分けをもらったり地域のお祭りに参加する等、地域住民との交流に取り組んでいる。また地域の行事や、散歩、買物等に出かけた際地域の方に声をかけられたり、挨拶をして地域の一員として日常的に交流している	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジアドバイザーに登録し、地域の人の相談を受けている。又、地元の高校の出前講座に参加し、高校生に福祉の仕事の理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でG.Hの状況等を話し合い、地域の人達の意見も伺って参考にさせてもらっている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、町内会長、民生委員、包括支援センター、家族会、管理者、職員、女性会、近所の地域住民の参加があり、参加者との意見交換をし利用者のサービスに繋がるような情報を提供してもらったり、提案などを受けている。	運営推進会議をより充実したものにしていける為、近隣の住民の方の継続参加と地域の消防署職員、地域の警察署員に参加していただき認知症への理解を深める機会作りをされることを期待します。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する説明会への参加や情報の提供を行うと共にわからないこと、困った事等相談し助言を受けている。 (9月実施指導を受けて、ケアプラン、モニタリング等のサービスの助言を受けて良かった)	日常的な書類提出の機会や市の開催する説明会に参加し、担当者に話をする時間をつくるよう心掛け、関係作りに取り組んでいる。、事業所の状況報告を行い課題に対するアドバイスなど頂くようにしている。運営推進会議への参加が開催曜日の関係もあって実現できていない。	運営推進会議の開催曜日なども勘案し、市町村の方にも出席していただき事業所の実情を知っていただく機会をつくれることを期待します。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を受け、忘れないよう、職員会議で時々、禁止の対象の勉強会をしている。 身体拘束はしていない	施設職員は身体拘束の弊害についてよく理解しており、毎日の暮らしの中でも利用者同士のトラブルやストレスをなくすように配置の工夫をしたり、常に声掛け、見守りをしている。部屋・玄関の施錠はしない取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止や、何が虐待なのかの勉強会を開催し、虐待のないよう職員がお互いに注意をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は成年後見人に登録している。 又、職員会議等で勉強会を開いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時、利用者その家族の方と充分な話し合いを行い、理解と了解を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族の要望に添うよう努めている。 (例:家族の依頼により、主治医以外への通院介助、買物への付き添い等)	面会時や毎月発行する「どんぐり便り」で利用者の様子を家族に伝え、積極的に家族の意見を聞くようにしている。運営推進会議にも家族の方に参加していただき意見・要望・不満を聞き出来ることはすぐ対処している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議で意見を聞いている。 又、問題や提案等その都度解決を図っている。	月1回の職員会議で意見を聞いたり、日々の業務の中で、管理者が直接、個々の意見を聞き、出された意見や提言を運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況等により、昇給、ボーナスの支給がある。 又、向上心を持って働けるよう、介護福祉士手当等定めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修へは、なるべく多く行ってもらうよう、機会をもうけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	「福山地域タウンミーティング」に参加。 又、他のG.Hとの相互訪問をすることにより、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人との十分な話し合いにより、要望を聞いたり不安等取り除くよう努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	家族等、困っていること、不安なこと、知りたい情報を聞いて対策を伝えている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	サービスの利用開始時、本人が安心し大丈夫と言われるまで付き添っている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	小さいG.Hなので、職員本人は家族のような関係になっていて、お互い助け合って生活している。		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	職員は家族の協力を得ながら、本人の立場になって、支えているという関係が出来ている。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	本人の馴染みの関係が持続できるようサポートしている。 (例:電話や墓参り、年賀状を送る等)	ホームでは自分の居室は自分の家という感覚で対応しており、子や孫等家族や知人がいつでも時間にとられることなく自由に来所できるように対応している。 また、お墓参りに行く事や年賀状作りも支援している	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	職員は利用者同士の関係を把握し、椅子の席等考慮している。又、孤立しないよう居場所の確認や出来ることを皆で分け合って手伝ってもらっている。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	利用者さんが入院しても、亡くなるまでお見舞いに行ったり、洗濯物を取りに行ったりして家族に喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は把握している。困難な場合は家族の協力を得ながら、本人の思いを傾聴している。	「思いやりの心を大切」を基本として、日々の関わりの中で言葉や行動、様子から思いや意向を把握し職員で共有し、お一人おひとりに応じた支援が出来るよう努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し、生活暦や馴染みの暮らし方は把握できている。 (例:花を植える。梅干し、団子作り等)		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	絶えず居場所の確認と、心身状態等、状況の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、多種職の方の意見を聞いて、サービス担当者会議で職員の意見を参考に本人にとって笑顔の出るような介護計画が作成できる様努めている。	日頃の関わりの中で把握している利用者の思いや意向、面会時や電話で聞き取った家族の意見や要望を参考にカンファレンスを開いて、職員全員で検討している。モニタリングや評価がなされ、それぞれの意見を反映して利用者の変化に即応した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。又、月に支援経過に記録、本人の状況把握をし、介護計画を見直すかどうかの判断をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の思いを傾聴し、生活に反映している。 (例:外食、足浴等)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方の避難訓練の参加、地域行事の参加(盆踊り、とんど、茶飲み会等)。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月一度の主治医への受診。 又、緊急時はすぐに往診に来ている。	主治医は月2回往診があり、また利用者を月一度受診にお連れし、お一人おひとりの心身の状況を把握している。緊急の場合は主治医が往診に来てくださり、些細なことでも気軽に相談に乗っていただけ、夜間も安心して過ごせるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の情報や気付きを伝え、相談している。又、薬の変更や通院時も記録に残し、情報を伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、全ての情報を提供している。退院については、家族と話し合い本人にとって良い方法を選んでもらっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、終末期について、本人、家族、主治医と何度も話し合いを持つ機会を作っている。	馴染みのある利用者が一日も長くホームを利用していただけるようにとの願いを込めてケアを行っている。これまでに何人かの方を看取られている。家族にも提携医と共に施設で出来ること出来ないことを話し、信頼していただいている。出来るだけ意向をかなえてあげたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えてマニュアルの作成。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策のマニュアルの作成。地区の災害対策への参加。	施設で年2回利用者・地域住民・職員・消防署も参加して火災避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。利用者による消火実技訓練・夜間の避難訓練も実施されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーの尊重、本人の目線に合った言葉かけ、対応に努めている。	お一人おひとりの利用者の尊厳、プライバシーを尊重したケアが出来ている。接遇面にも気を配っていて職員の言葉掛けは温かく、禁止行為や禁止用語等を理解した上で、気持ち良い対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いを傾聴、どのようにしたら良いか、その都度聞いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いを尊重し、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った生活を送ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人にとっての想いを尊重し、服の購入時は一緒に行って購入することもある。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しむことが出来るよう、土筆、芋づる、とうもろこし等、皆でこしらえたりしている。皆で片づけをしたり、食器を洗っている。	食事内容に気を配っていて、地元で出来た野菜「懐かしさを感じる芋づる」等、また地元の魚等趣向を凝らしながらおいしく栄養価の高い物を考えて利用者と職員で作っている。利用者の方も食器の後片付けをされたり食器を洗ったりしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量、一日の量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。栄養バランスに気をつけながら、野菜や青魚を多く摂るように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	寝たきりの人でも、毎食後の口腔ケアは出来ている。又、自分で出来る人も時々忘れる為、声掛けをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレでの習慣が出来ている。又、寝たきりの人でトイレですと言われれば介助している。	利用者お一人おひとりの排泄パターン、習慣や癖を把握し、声かけ、誘導、見守りを行っている。車椅子対応のトイレがあり、寝たきりの方も要望があれば対応し、排泄時のプライバシーに配慮しながら自立に向けた対応が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜や海草を多く摂り、自然排便が出来るよう努めている。又、排便のチェックを行っており、個別対応をしている。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴してもらっている。入浴が嫌いな人、洗髪が嫌いな人もいたので声掛けなどに気をつけている。	入浴については、週3回実施しているが職員が一方的に決めずに利用者の希望を聞いて対応している。入浴の拒否が見られる方には時間や人を変える等タイミングを見計らい支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりに応じた、休息や安眠を心がけている。一人になりたい時や昼寝等、訴え時は自室に帰っている。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的、副作用、用量等は理解し、主事医と連携を密にし、薬が少なくなるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割や楽しみはケアプランに出して実行できる様支援している。 役割等ははしてもらったら必ず皆で御礼を言うように心がけている。 楽しみはカラオケ、食事などがある。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は河川敷や近くのお寺への散歩、食事の買出しの手伝い。 家族の協力を得て、墓参りや買物等支援している。	初詣でや外食(マクドナルド・かっぱ寿司)地元の祭り亥の子祭・お花見・紅葉狩り・菊の展覧会等へ出かける支援をしている。近くに河川敷があり散歩に出かけ地域の方と挨拶したり話しをしたり、また地域の方から野菜をいただいたりしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に心じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る人は財布を持って地域の行事等参加している。 又、買物等自分でしている人もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の協力を得て、家に電話したい時はしてもらっている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度や湿度には適温に気をつけ、臭気も原因を見つけ退治している。 又、季節の花を取り入れて季節感を味わってもらっているが、何でも取り込んだり食べたりされないよう置く場所には気をつけている。	施設内は清潔にされており、お掃除が行き届いている。季節の花を飾ったり、壁面には年間行事を実施した写真が張られ、利用者の楽しそうな笑顔が沢山見られ、落ち着いて過ごされている様子が伺える。台所からの調理の音や匂いを感じることが出来るなど、季節感や生活感を採り入れ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では、それぞれの居場所があり、お互い話し合ったり、TVを見られている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたベッド、整理タンス、又、仏壇を置いてあり、居心地良く過ごされている。	家族とも相談しながら、利用者おひとりお一人の生活スタイルに合わせ、使い慣れた家具や生活用品、思い出の品物などを持込み、自分の作品や写真、花などを飾り、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレでのバーを持つ位置、取っ手等配置し、安全に移動してもらっている。 「トイレ」「居室」には、名前を掲げ、場所の確認してもらっている。		

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらい 利用者の3分の1くらい ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホームどんぐり村

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の3分の2くらいが
			職員の3分の1くらいが
			ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の3分の2くらいが
			利用者の3分の1くらいが
			ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の3分の2くらいが
			家族等の3分の1くらいが
			ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームどんぐり村

作成日 平成 22 年 10月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営推進会議に地域の方の参加が少ない	運営推進会議に近隣の消防署・警察署・住民に参加して頂く	運営推進会議の案内状を地域の方に持参する	1年
2	5	市町村との連携があまり取れていない	市町村の担当者の所に行き来する機会を作る	市町村の開催する研修会や説明会に出席し担当者と話をする	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。